

地域創造学類カリキュラムマップ(地域プランニングコース専門科目)(平成23年度までの入学者用)

ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ地域プランニングコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。
地域プランニングコースの学習成果	
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。
	理念目標・社会的責任 対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。=地域活性化
	現状理解・把握 対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。=コミュニティ基盤、生活環境基盤、地域資源の発見・評価、地方行政
	実践論・対処方法 対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。=地域計画、地域情報伝達
② 技能・表現	調査・分析方法 地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能 他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果							
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35200	地域学概論	地域学の目的や構成、地域に対するアプローチを初めとして、地域や空間、環境に対する見方・考え方や、成果・課題を理解すること。	地域概念、形式地域、実質地域、地域分類	2	2		◎	◎		○		○		
35201	地域計画論	・日本と世界の地域開発政策や国土開発政策の趨勢を学ぶ。 ・地域計画が策定された当時の地域格差など経済状況と計画の目標とを関連させて理解する俯瞰的な視点を獲得させる。 ・計画目標と現実との乖離を批判的に検討する視点を養う。	国土開発、地域格差、政策主体、インフラ整備、計画目標	2		2						◎	○	
35202	住環境論	・生活者の視点の重要性を理解する。 ・住環境、まちづくりについての基礎的知識を習得する。 ・住居をとりまく地域や都市にいたるさまざまなレベルにおける住環境の現状と問題点を理解する。	居住性、景観、住生活、住宅地、子ども、まちづくり、居住者参加	2	2		○	◎					○	
35203	地域文化論	文化人類学の視点から見た地域文化のあり方を、具体的事例検討を通じて把握する。	地域研究、歴史伝統、近代化	2	2		○	◎						
35204	歴史地理学	自明視されがちな「伝統」や「文化」が成立する背景や、近代における産業の動態を理解し、まちづくりなどを進める一歩前に用意すべき「地域の履歴書」を作成する視点を習得する。	「伝統」「文化」近現代、地域理解、近代化、景観復元	2		2	○	◎			○		○	
35205	地域人口学	・人口減少社会に突入した日本の人口問題について理解する。 ・都市や農村などそれぞれの地域が抱える人口問題の特性について理解する。 ・人口分析のための基本的な技能を習得する。	少子高齢化、人口移動、出生率、死亡率、婚姻率、定住外国人	2	2		◎	◎			◎			◎
35206	都市地理学	都市地理学という学問分野の特徴、空間(や地域、環境)としての都市の概念、都市空間に対する様々な研究方法とその成果や課題を理解することになります	市街地、都市圏、都市構造、都市システム	2		2			◎		◎		○	
35207	農村地理学	農村地理学の基礎的知識を習得し、農村における生業や産業、慣習などの具体的な社会経済的現象を「空間」および「スケール」という概念をキーに総合的・系統的に理解する能力を身につける。	市場経済化、兼業化と脱農家、社会空間、村落社会、近代化、産地形成、フードシステム、農村空間の商品化	2	2		○	◎			○		○	
35208	住生活学	・住生活学についての基礎的知識を習得する。 ・住生活と住空間の相互関係について理解する。 ・現代の住生活問題を生活者の視点から理解し、問題解決のための考察力と住居観を身につける。	住居、家族、生活、住居計画	2		2	○	◎			○		○	
35209	観光論	観光を人間の行う活動の中に位置づけ、その特質を考察するとともに、観光が地域文化の動態にどうかかわるかを理解する。	観光、文化資源			2	○	◎						
35210	地域情報ネットワーク論	コンピュータのハードおよびネットワーク技術の基礎知識から応用までを体系的に学ぶ。	電磁波、インターネット、TCP/IP、光通信、認証、暗号と電子透かし	2	2				◎	○		◎	○	

地域創造学類カリキュラムマップ(地域プランニングコース専門科目)(平成23年度までの入学者用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ地域プランニングコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
地域プランニングコースの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。=地域活性化
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。=コミュニティ基盤、生活環境基盤、地域資源の発見・評価、地方行政
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。=地域計画、地域情報伝達
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果						
							理念目標・社会的責任	知識・理解 現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲
35211	地域情報支援論	情報技術の基礎と地域への普及、および、文系・理系の垣根を越えた意識の養成	情報技術の活用、パソコンの活用、文理融合、情報発信	2	2		○	◎				○	
35212	地域情報管理論	情報管理のためのデータベースの基礎を理解し、地理情報システム(GIS)と、その周辺技術、ソフトウェアについての知識を深める。	地理情報システム、地域情報、情報管理、データベース、データのモデル化	2	2			◎	○	◎	○		
35213	地域経済論A	1. 現代経済に関する地域的視点および地域経済分析の理念と方法を学ぶ。 2. 足下の地域の実態から経済社会の問題を解明する分析視角を養う。	グローバル化のもとでの諸地域経済の現状、課題、発展戦略	2	2		○	◎	○		○		
35214	地域経済論B	1. 現代経済に関する地域的視点および地域経済分析の理念と方法を学ぶ。 2. 地域経済学と地域政策の歴史的な展開を理解する。	地域経済学の理論、分析方法、地域政策の歴史	2		2	○	◎		○	◎		
35215	地方財政論A	歳入項目の制度を理解し、改革方向に関する自らの見解をまとめられるようにする。	税制、交付税、国庫支出金、三位一体改革	2	2		○	◎		○	◎		
35216	地方財政論B	歳出面からみた自治体の役割を理解し、地方財政分析の基本を身につける。	目的別・性質別経費分類、地方債、財政健全化	2		2	○	◎		○	◎		
35217	都市計画	1.都市計画の基本的考え方を理解し、主要な専門用語を説明できる。 2.都市と都市計画の歴史を理解し、都市づくりにおける都市計画の役割を説明できる。 3.都市を対象とする各分野の計画の手法や方法を理解し、説明できる。 4.主要な都市計画先進国および日本の計画制度を理解し、説明できる。 5.小論文の作成を通じて、これらの理解を深め、論述的に表現できる。	都市問題、マスタープラン、まちづくり、住民参加	3	2						◎	◎	○
35218	交通計画	1.道路交通問題とその対策法、ならびに道路交通の計画プロセスについて理解する。 2.段階的推定法などの交通需要推計の考え方、推計法およびそれらの問題点を修得する。 3.非集計モデルによる交通量推定法を修得する。 4.道路交通流や交差点設計の考え方を理解する。	交通渋滞、パーソントリップ調査、四段階推定法、プローブ調査、非集計モデル、交通流理論	3	2			○		◎		◎	
35219	地域学習論	地域の再生、地域課題の解決、活力ある地域づくりなどに向けた地域住民による「地域に関する学習活動」の意義について理解を深める。	地域学習、成人学習者、学びの共同性	2		2	◎				○	◎	○
35220	地域コミュニティ論	東南アジアの少数民族を事例に取り上げ、一般的諸問題を考察する中で、他者のより理解を目指す。	民族誌、文化、宗教、儀礼、地域研究・東南アジア	2	2(集中)		◎	○		○	○		
35221	社会調査論	社会調査の技法に関する具体的な知識を習得することで、既存の調査データの信頼性や妥当性を確認し、データ解釈の誤りを見抜く力をもてるようになる。また、問題の設定から仮説構成、調査票の作成と実施、結果の集計と分析、という一連のプロセスの経験をおとして、社会調査の長所や短所、その社会的な役割について、実践的に身につける。	フィールドワーク、質的調査、量的調査	2	2			○	◎	◎	◎		

地域創造学類カリキュラムマップ(地域プランニングコース専門科目)(平成23年度までの入学者用)

ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ地域プランニングコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
地域プランニングコースの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。=地域活性化
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。=コミュニティ基盤、生活環境基盤、地域資源の発見・評価、地方行政
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。=地域計画、地域情報伝達
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果							
							理念目標・社会的責任	知識・理解 現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35222	まちづくりインターンシップ	地域において、行政やまちづくりNPOなど民間団体が取り組んでいるまちづくり活動を現場で体験し、今後の学習に生かしていくことを目的とする。インターンでは、実際に研修先での活動を手伝うだけでなく、自分の特技や能力を生かす。	まちづくり協働、自治体NPO、民間企業、市民連携、政策立案、政策提言、問題発見、分析能力、現場体験	2	2		○		◎	○	◎			
35223	文化人類学実習A	ミクロな地域社会での生活を、社会、経済、家族関係、信仰などの観点から総合的に把握する方法を、聞き取り調査の実践を通して身につける。	フィールドワーク、聞き取り調査、地域社会	3	2				◎	○				
35224	文化人類学実習B	ミクロな地域社会での生活の、社会、経済、家族関係、信仰などの側面を通して総合的な提示の仕方を、調査報告書作成の実践を通して身につける。	フィールドワーク、聞き取り調査、地域社会	3		2			◎	○				
35225	人文地理学調査実習	これまでほとんど知識を持たない地域に出かけて、外部者の目から地域の抱える問題を抽出してその解決策を考える。環境、地域経済、地方政治、文化、歴史、コミュニティなど多面的にアプローチする手法について学ぶ。	地域スケール、フィールド調査、ミクロとマクロ、マルメソッド、聞き取り調査、質問紙調査、地図化、GIS、経済統計、比較分析	3		4		○		◎	○	◎	○	
35226	地域社会調査実習	地域コミュニティを対象とした自分たちの関心あるテーマについて、協同してフィールドワークをおこない、以下の①～④までの社会調査の全体を実地に経験し、その技法を身につける。 ①研究テーマに関する先行研究を検討し、仮説をたてる ②仮説検証のために、どのようなデータをどのような方法で収集するかについての計画をたてる ③調査対象者に量的あるいは質的調査をおこない、実際にデータを収集することができる	仮説、フィールドワーク、聞き取り調査、調査票調査、地域コミュニティ、まちづくり、地域集団(町内会・自治会、NPO)	3		4		○		◎	○	◎		
35227	地域分析実習	・地域調査に際して適切な方法を選定することができるようになること。 ・調査の設計方法を理解し、仮説の立て方や誤差やサンプリング方法、調査票の設計方法やインタビューの方法、フィールドノートの取り方、調査後のデータ整理の方法について理解すること ・調査から得られたデータを分析するための基礎となる統計学の基礎について理解を深め、主な分析方法をマスターすること ・コンピュータの操作について習熟し、統計パッケージのSPSSや作図ソフトの利用法もマスターすること ・GIS(地理情報システム)の機能と利用方法について理解すること	地域調査の設計、基礎統計学、空間分析、コンピュータ、作図、GIS(地理情報システム)	2	2			○	○	◎		○		
35228	地域計画論演習	・これからのまちづくり、地域づくりにとって必須と考えられている理念を学ぶとともに、現場で作用している政治力学や経済力学を解剖するための技能を磨く。	住民参加のまちづくり、福祉のまちづくり、景観まちづくり、持続可能なまちづくり、指定管理者制度、PPP、学習する地域	2	2			◎		○		◎	◎	◎

地域創造学類カリキュラムマップ(地域プランニングコース専門科目)(平成23年度までの入学用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ地域プランニングコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
地域プランニングコースの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。=地域活性化
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。=コミュニティ基盤、生活環境基盤、地域資源の発見・評価、地方行政
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。=地域計画、地域情報伝達
② 技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③ 思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果						
							理念目標・社会的責任	知識・理解 現状理解・把握	技能・表現 実践論・対処方法	調査・分析 調査・分析方法	思考・判断	関心・意欲	態度
35229	地域社会学演習	キーワードに挙げた地域社会の課題について知り、ワークショップ形式での他の受講生との議論のなかから問題解決の方法を考えることができる。	観光、絆(コミュニティ)、自治体・地方分権・新しい公共、福祉(医療、障がいのある人、高齢者)、NPO・ボランティア、災害、環境、町内会・地域集団、地域の教育力、中心市街地活性化、過疎問題・まちおこし、防犯、ソーシャルビジネス・社会的起業	2	2		◎	○		○	◎		
35230	都市・交通論演習	・海外など遠隔地での調査を行う際、どのような準備が必要かを知ること。 ・都市や交通の実態と課題について、基礎的な知識と観察力を習得すること。	巡検、海外調査、調査計画	2		2			○	◎		◎	○
35231	農村地理学演習	農村をフィールドとした地理学的研究を進める前段階に必要な基本的知識と、作図などの基本的技術の習得を通じて学術研究の基礎に触れる	農村地域研究、農業地理学、村落地理学、山村、海村、地図作製	2		2			○	○	◎	◎	
35232	住生活学演習	・住生活、住環境、住教育に関する情報収集、データ分析を理解する。 ・研究に必要な基礎的な研究計画力、調査能力、分析能力を身につける。 ・基礎的な住居設計について理解する。	住生活、住環境、住居設計	2		2			◎	◎	○		○
35233	地域文化論演習	地域文化に関する民族誌や研究書を読むことで、地域文化が住民のつくる社会、制度、慣習、またその主要な生業や宗教信仰など多様なものから構成されていることを理解する。	地域文化、民族誌、文化人類学	2		2			○	○	◎	○	
35234	地域学習論演習	地域の再生、地域課題の解決、活力ある地域づくりなどに向けた地域住民の学習活動の意義について理解を深める。	地域課題、住民の学習活動、地域づくり	2		2	◎			○	○	◎	
35235	地域情報学演習	測定、データ処理、報告書の書き方、発表等を通してパソコンの活用技術を体系的に学ぶ。	分析、地域情報、計測、カラーユニバーサルデザイン、シミュレーション	2		2			◎	◎	○		
35236	地域プランニング演習	4年次の卒業研究(卒業論文作成)に向けて、必要な知識・技能を教授する。	応用演習、卒業研究、卒業論文、地域プランニング	3		4			◎	◎			
35237	金属加工法	金属を中心とする工業材料の加工方法の基礎理解	研削、旋削、溶接、鍛造、熱処理、検査、残留応力	3	2			○	◎	○		○	
35238	機械概説	機械工学の基礎に関する理解	材料力学、材料工学、応力測定、プログラミング	3	2			○	◎	○		○	
35239	電気概説	交流とはどのようなもので、どのような素子が使用され、どのように解析していけば良いかを学ぶ。半導体材料の性質やデジタル回路の理解も併せて深める。	電気回路、コンピュータ、デジタル回路、半導体材料	3	2				◎	◎		○	
35240	電子理論	レーザーやLEDの基本的な特性や発振原理、レーザー光の特性、レーザーの工業、医学、エネルギーへの応用について学ぶ。	レーザー、LED、加工、計測	3		2			◎	◎		○	
35241	情報技術概論	情報処理技術の基礎となるコンピュータの原理とその機能を修得し、情報技術の基本を理解する。	コンピュータ、ハードウェア、ソフトウェア、情報表現、論理回路、演算回路	3	2				◎	◎		○	
35400	卒業演習	各自の関心・テーマを探究し卒業論文を執筆するための研究・実験・調査等を行うとともに、論文執筆の技法を身につける。	卒業論文、論文執筆の技法	4		4	◎			◎	◎		◎

地域創造学類カリキュラムマップ(地域プランニングコース専門科目)(平成23年度までの入学者用)

ディプロマ・ポリシー (学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ地域プランニングコースの学習成果を上げた者に対して、学士(地域創造学)の学位を授与する。	
地域プランニングコースの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。=地域活性化
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。=コミュニティ基盤、生活環境基盤、地域資源の発見・評価、地方行政
② 技能・表現	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。=地域計画、地域情報伝達
	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
③ 思考・判断	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
	思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。
④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	必修の学類共通科目を履修した後、各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また、演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に、調査実習、体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には、共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて、将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には、講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には、応用演習と実習により、コースの専門的知識と技術を修得し、4年次では、自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み、地域における調査とフィールドワークを通じて、地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により、現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果						
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	伝達技能	思考・判断	関心・意欲
35401	卒業研究	各自の関心・テーマを探究し大学での学習の集大成となる卒業論文を執筆する。	卒業論文	4	6		◎	◎			◎		◎